株式会社フィックスターズ

中期経営ビジョン

2026年10月 – 2029年9月

サービスカンパニーから、

AI-Nativeサービス ＋ AI推論 ＋ AI Agents カンパニーへ

AIエージェントと自動最適化AIで、エンジニア数に比例しないフロー収益の成長と、推論・エージェントのストック収益を両立

2026年11月

Speed up your AI
FIXSTARS

01

フィックスターズについて

当社の現在地

売上は3年で70億円から106億円へ
成長の土台はでき、次の課題は収益構造の転換

ハードウェアの性能を引き出すソフトウェア技術

Speed up your AI — AIとソフトウェア高速化のエキスパート集団

ソフトウェア高速化技術

- コンピュータ処理の高速化を通じて、顧客のビジネス課題を解決する
- より低消費電力なハードウェアで、同等の処理性能を実現する

ハードウェア活用技術

- 新しいハードウェアの性能を、ソフトウェアによって最大限に引き出す
- SDK・ライブラリを整備し、ハードウェアの競争力を高める

これまでに手掛けてきたハードウェア

- GPU
- CPU
- FPGA
- AI推論アクセラレータ
- エッジSoC
- 量子・イジングマシン

主な顧客業界



OUR PURPOSE

フィックスターズのパーパス

AI推論の時代に、当社が掲げるパーパスの重要性はさらに高まる

ソフトウェアを効率的に動かすことで



できなかった計算をできる計算にする



コンピューティングに必要な消費電力を低減する

AIの利用拡大により、推論の計算量と電力消費は増大を続ける。効率よく動かす技術の価値は、これからの3年でさらに重要性を増す

推論需要が増えるほど、AIを効率よく動かす技術が、顧客のコスト削減と当社の収益機会に直結する

前中期経営ビジョンの振り返り

前中期経営ビジョンで掲げた「速くしてあげる」から「速くして動かしてあげる」
土台はできたが、収益構造の転換はこれから

進んだこと

事業の拡大

連結売上高は 70億円（2023年9月期）から
106億円（2026年9月期）へ。利益率も高水準を維持

クラウド事業の立ち上げ

量子・数理最適化クラウド Fixstars Amplify の利用が企業・研究機関に拡大

AI基盤製品の投入と活用

開発用AIエージェント環境 Fixstars Vega を製品化。
自ら使い、製品へフィードバックし、最適化AI「APEX」を育成

残った課題

収益の大半はフロー型

売上の9割超は受託開発。製品・クラウドによるストック型収益は、まだ成長に向けた投資段階

引き合い中心の営業体制

顧客からの相談を起点とする営業が中心。
自ら市場をつくる力が不足

経営人材層の不足

事業の成長に、経営を担う人材の育成と採用が追いついていない

新中期経営ビジョンでは、残った3つの課題に重点的に取り組む

Speed up your AI
FIXSTARS

02

市場動向

当社を取り巻く環境

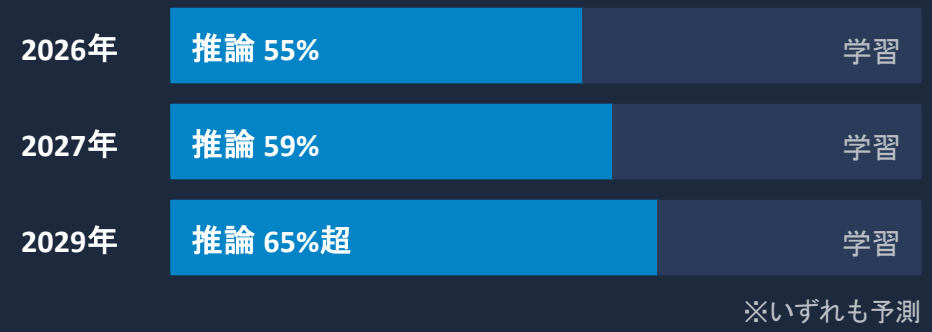
AIは推論の時代へ
モデルとハードウェアが多様化するほど、最適化の価値は高まる

AIは、つくる時代から使う時代へ

AIのモデルをつくる「学習」から、AIのモデルを使う「推論」へと、計算需要の変化が進む

2026年、推論への支出が学習を上回る

世界のAI向けクラウド支出（AI最適化IaaS）の内訳



※いずれも予測

日本でも

AIサーバー支出で、2027年に推論が学習を上回る見通し

出典：Gartner（2025年10月、2026年8月）、IDC Japan（2026年3月）

AIエージェントによる推論量の増加

人が使うAIから、自律的に動くAIへ。1つの仕事に必要な推論量が大幅に増える

コストと電力によるAI活用への制約

推論の費用と電力の確保が、企業がAIをどこまで使えるかを決める

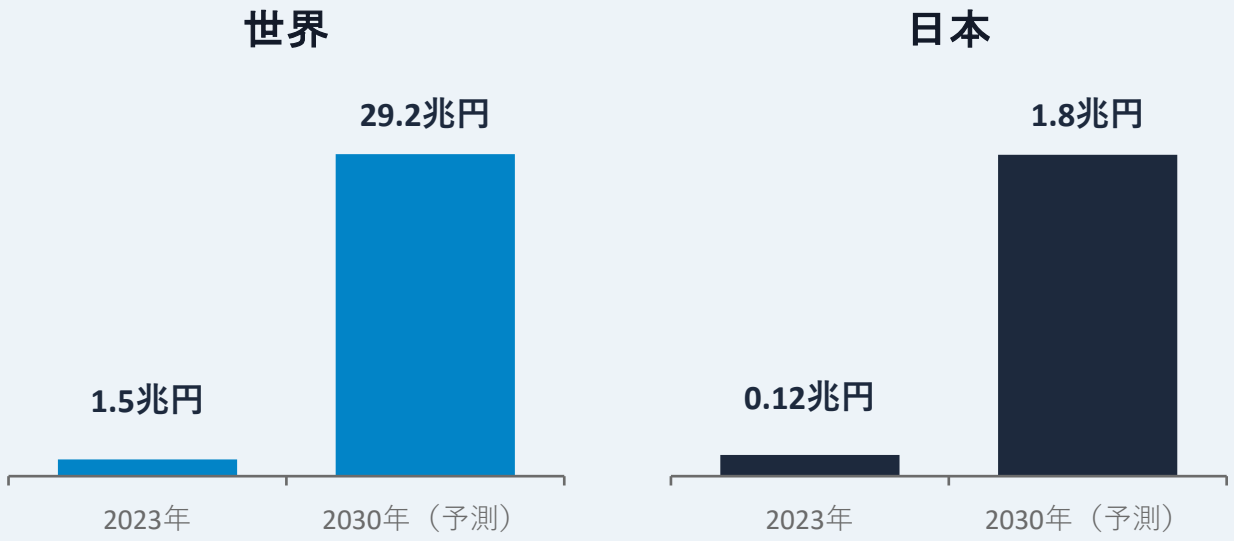
同じハードウェアでも性能はソフトウェアで変わる

同じGPUでも、使い方次第で処理できる量と応答速度は大きく変わる

オープンモデルによる推論の拡大と巨大な市場機会

生成AIの需要は2030年に世界で約29兆円、日本で約1.8兆円。推論はオープンモデルの利用が急成長

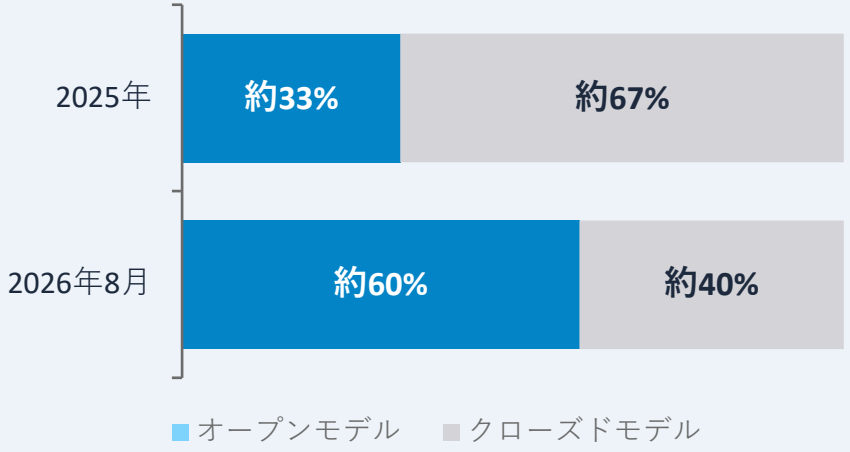
① 生成AIの需要額は急速に拡大



約20倍　　約15倍

② 推論におけるオープンモデルの台頭

推論に使用されたトークン量の内訳
（OpenRouterにおける利用実績）



米国では既にオープンモデルが過半

オープンモデルが主流となる巨大市場。
当社はここで世界最高水準の低コスト推論環境の提供を目指す

出典：① JEITA（2023年12月。1ドル=138.6円換算、日本の2023年値は逆算）　② OpenRouter・a16z（2025年12月）、The New Stack（2026年9月、米国発リクエスト）

3つの変化が、当社の機会を広げる

最適な組み合わせは、時代とともに変わり続ける

ハードウェアの進化と多様化

GPUは短い周期で世代交代、推論専用チップやエッジSoCも次々に登場。
最適なハードウェアは時代とともに変化する

オープンモデルの台頭

高性能なオープンモデルが多数提供される。用途に応じた最適なモデル選定は複雑化する

AIの自社運用ニーズが拡大

データと、独自に構築したAIエージェントを自社で管理したい企業が増える。専有環境での推論需要が広がる

どのモデルを、どのハードウェアで、どう動かすか

最適化により、AIのコストと消費電力を下げる

Speed up your AI
FIXSTARS

03

中期経営ビジョン

2026年10月 – 2029年9月

受託開発をエンジニア数に比例しない成長へ
その上に、推論とエージェントのストック収益を積み上げる

Speed up your AI
FIXSTARS

OUR VISION 2029

目指す姿

その時代の最適なハードウェアを最大限に活用して、低コスト・低消費電力でAI推論を提供し、AIエージェントを駆使してソフトウェア開発を担うAI-Nativeサービス ＋ AI推論 ＋ AI Agents カンパニー

低コスト

低レイテンシー

低消費電力

AI Agents

ハードウェアは、その時代の最適を。モデルも、その時代の最良を。その上で、AIエージェントが開発を担う

中期経営基本方針

AI-Nativeサービスを土台に、AI推論・AI Agentsのストック型事業を展開

AI Agents（Agentic開発）

Fixstars Vega　開発用AIエージェント環境

当社の開発現場で鍛えたAIエージェントを提供。推論APIだけでは出せない、当社独自の価値

エージェント環境による
ストック収益

AI推論

Fixstars Inference Cloud　から、企業専用の推論環境へ

共有型　Inference Cloud 〉 **専有型　クラウド** 〉 **専有型　オンプレミス**

推論環境による
ストック収益

AI-Nativeサービス（土台）

AI-Native Engineering Service

APEX
社内専用の自動移植・自動最適化AI

社内専用AI「APEX」を段階的に活用し、同じ成果をより短期間で実現することを目指す最適化サービス

高付加価値の
フロー収益

前中期経営ビジョンの課題に対する打ち手

残った3つの課題に対し、本中期経営ビジョンを通じて転換を図る

収益の大半はフロー型	AI活用によりフロー収益を高度化するとともに、推論インフラとAIエージェントによるストック収益を確立
引き合い中心の営業体制	AI推論市場での客観的実績で技術優位性を示し、顧客専任体制を構築することで潜在需要を能動的に開拓
経営人材層の不足	技術経営人材の社内育成、ビジネスプロ人材の獲得、M&A組織の迅速な統合により、経営人材層を拡充

当社の競争優位性

長年の技術開発と顧客との取引を通じて培った4つの強み

ハードウェアを熟知した最適化技術

20年以上、GPU・FPGA・専用チップ向けの高速化・
最適化に取り組んできた実績。
新しいハードウェアの性能を、いち早く引き出せる

自動移植・自動最適化AI「APEX」

開発・運用現場の移植・最適化ノウハウを活用し、
様々なハードウェアへの対応を効率化。
現場で得た知見を継続的に反映

自社開発AIエージェント「Fixstars Vega」

当社のエンジニアが日常的に利用。
受託開発の現場で検証・改善を重ねて製品力を強化

機密性の高い企業との長年の関係

半導体・自動車など、高い機密性が求められる顧客との
長年の取引を通じ、専有環境でのAI活用ニーズを把握

4つの強みの連鎖が、持続的な当社の競争優位性につながる

AI-Native Engineering Service ― エンジニア×APEX で開発を高度化

エンジニアの専門性と**社内専用AI「APEX」**を組み合わせ、開発期間の短縮を実現する受託開発サービス

AIを活用する4つの領域

ソフトウェア高速化・AI推論の最適化
当社の中核。AIにより最適化手法の探索を効率化

組込み・車載・エッジAIの実装
デバイス上でAI推論を低消費電力・高効率に実行

セキュリティ
脆弱性の診断から修正まで一貫して対応

数理最適化
定式化から実装・運用まで、AIを活用して効率化

工数ベースから、性能向上・期間短縮に応じた提供価値ベースの対価設定への転換を目指す

エンジニア × APEX

エンジニアの役割
- 課題設定
- 設計と判断
- 顧客対応

APEXの役割
- チップへの移植
- 最適化の探索
- 実機での検証

案件で得た知見をAPEXに還流し、最適化技術を継続的に高度化

案件を遂行 〉 知見をAPEXに還流 〉 次の案件に活用

個人の経験やノウハウを、組織の技術資産として蓄積

APEX — 半導体の違いを吸収する、自動移植・自動最適化AI

フィックスターズ専用の移植・最適化AI。当社の競争優位の源泉として、外販せず社内でのみ活用



チップの多様化により移植と調整の手間が増大。
AIによる自動化とともに、社内へ知見を溜め続けることが構造的優位を生む

Fixstars Inference Cloud — 従量課金のAI推論クラウド

FY2027公開予定。ハードウェア調達・モデル構築は不要。世界最高水準を目指して最適化したオープンモデルの推論環境を提供

利用者・接続元

- 世界の開発者
- 企業のアプリ・サービス
- AIエージェント

Fixstars Inference Cloud

最新のオープンモデル

- 対話
- コード
- 画像理解
- 推論

APEX　モデル×ハードウェアを自動で最適化

- GPU
- 推論専用チップ
- 次世代チップ

提供価値・形態

高速な推論実行結果

テキスト生成・コード補完・画像認識などの出力を低遅延で提供

従量課金モデル

初期投資が不要な、トークン単位での従量課金

低コスト

APEXによる最適化の恩恵を価格に還元

低レイテンシー

高頻度のリクエストにも耐えうる即時応答性・高スループット

低消費電力

消費電力あたりの推論処理量を極大化

AI推論 — Fixstars Inference Cloud から、企業専用の推論環境へ

パブリック環境で世界最高水準の低コスト・高速性を実証し、顧客のAI活用の深化に合わせて専有環境へ

パブリック（性能の実証・体験）

エンタープライズ（Own your Intelligence：データ・AIの専有化）

共有型　Fixstars Inference Cloud

対象

世界の開発者・企業

- すぐに利用可能な共有環境
- 低コスト・高スループットを実トラフィックで実証
- 初期投資不要で最先端モデルを手軽に検証可能

専有型　クラウド専用環境

対象

自社サービスや社内システムへの本格実装を進める企業

- クラウド上に構築する1社専有の推論環境
- ワークロードを専有環境に分離
- 定額制で利用コストを固定化

専有型　オンプレミス専用環境

対象

育てたAIを自社の資産として囲い込みたい企業

- 顧客の自社設備内に構築する完全プライベートな推論環境
- データとAIを自社内で完結して運用
- 自社資産として長期運用

初期導入のハードルを低減　　**同じモデル・運用のまま、スムーズに専有環境へ移行**　　**長期継続的な利用料収益へ**

世界最高水準の低コストで、AI推論を運用する会社へ

モデルとハードウェアが進化・多様化する中、その組み合わせごとの最適化こそが、推論コストの競争力に

オープンモデル

高性能なオープンモデルが
多数提供され、推論における
オープンモデル利用が拡大

×

多様なハードウェア

NVIDIAに加え、推論専用チップ
や各社のアクセラレータが
次々に登場

→

APEX

モデル×ハードウェアの
組み合わせごとに自動で最適化

＝

世界最高水準の低コスト

トークンあたりのコスト・
消費電力を極小化

世界最高水準の低コストを実現可能とする要素

1 ハードウェア選定の自由度

特定のメーカーに依存せず、その時代に
価格性能比が最も良いハードウェアを使用する

2 ハードウェア性能の引き出し

長年の知見を活用し、同じハードウェアでも
処理できる量を大きく増やす

3 最適化プロセスの自動化

APEXの実用化により、最適化の対応コストの
大幅な削減と最新モデルへの即時対応を目指し、
先行者としての優位性を確立

モデルとハードウェアの組み合わせが増えるほど、人手での最適化が限界に。
自動で最適化できる当社の優位性は拡大

Agentic開発 — 開発用AIエージェント環境「Fixstars Vega」

推論インフラの低コストを入口に、自ら鍛え上げたAIエージェントを統合して提供。価格競争に陥らない付加価値を創出

エージェントの価値

自ら毎日使い、受託開発の現場で鍛える

当社のエンジニアが日常的に使い、知見をエージェントに蓄積する

〉

顧客への提供

外部販売を開始
専有型・共有型インフラ上でも順次提供

推論インフラにエージェントを統合する理由

推論インフラのみ

- トークン単価による価格競争に巻き込まれる
- スイッチングコストが低い

〉

推論インフラ ＋ AIエージェント

- 成果・生産性の向上効果で選ばれる
- 顧客固有の知見がエージェント内に蓄積される
- モデルを替えてもエージェントは資産として顧客に残る

提供するAIエージェント



開発エージェント

大規模なコードの理解から実装・テストまで。
組込み・低レイヤ開発の専門知見を内包



セキュリティエージェント

脆弱性の診断から修正、回帰テストまでを一気通貫で実行



数理最適化エージェント

実務課題から数理モデルへの定式化を支援し、Fixstars Amplifyの導入ハードルを低減

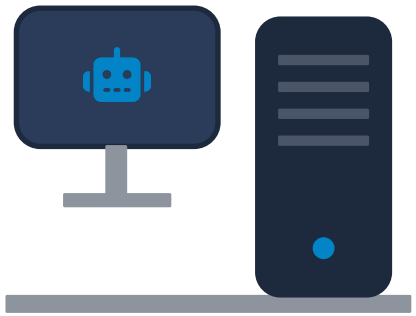
受託開発サービスとのシナジー
定型の開発作業はエージェントが自律的に処理、当社のエンジニアは高難度の課題に集中

Fixstars Vega — 手元に置ける、自社専用のAI開発チーム

ワークステーションからGPUクラスタまで、スモールスタートから全社基盤化まで柔軟にスケール

Fixstars Vega 導入形態を問わない、共通のエージェントスタック

- 開発エージェント
- セキュリティエージェント
- 数理最適化エージェント



ワークステーション型

机の横に置ける1台

- 通常のオフィス環境に配置可能
- チーム、少人数での利用
- 現場主導でスモールスタート

小さく始める



GPUクラスタ型

GPUサーバーを束ねた大規模構成

- 自社データセンターや専用クラウドで一元管理
- 全社・複数部門からの同時アクセス・共有利用
- 多数のエージェントによる並列処理

全社へ広げる

Own your Intelligence 推論基盤からエージェント、ソースコード、データに至るまで、すべてを自社の統制下に

AI-Nativeサービス ＋ AI推論 ＋ AI Agents で収益構造を転換

エンジニア人員数に比例する成長から、生産性を高めた受託開発と、推論・エージェントのストック収益による成長へ

これまで

売上 ＝
エンジニア数
× 単価

人員増加に比例するリニアな成長

これから　**売上 ＝**

AI-Native サービス

APEXの段階的な活用により生産性を高める、高付加価値の開発サービス

フロー｜最適化サービス

＋

AI推論

共有型（Fixstars Inference Cloud）・専有型の推論インフラ提供

ストック｜推論・環境利用料

＋

AI Agents

AIエージェント環境「Fixstars Vega」の提供

ストック｜エージェント利用料

労働集約型のモデルから脱却し、インフラ・ソフトウェアによるストック収益基盤を構築

重視する3つの指標

AI-Nativeサービス ＋ AI推論 ＋ AI Agents の進捗を、3つの重要指標（KPI）で追跡

① エンジニア1人あたり売上

受託開発サービス

示すもの

AI-Nativeサービスの高付加価値化

内容

APEXおよびAIエージェントの活用により、エンジニア1人が創出する収益

② AI事業の年換算売上

Fixstars Inference Cloud・Fixstars Vega・Fixstars Amplify

示すもの

ストック型ビジネスモデルへの転換進捗

内容

推論インフラ・AIエージェント・量子の各サービスから継続的に得られる、ストック収益の年間換算総額

③ 推論処理トークン数

当社が運用するAI推論の量

示すもの

推論プラットフォームとしての運用規模・計算処理実績

内容

社内利用を含めた、自社推論基盤上で処理された総トークン数

収益構造の転換を、この3つの指標で定点観測・モニタリング

成長を加速する4つの施策

アライアンスと能動的な市場開拓により自ら需要を創出

ブランドとマーケティング

外部推論プラットフォーム上での客観的な評価・稼働実績を通じて、当社の技術優位性を示すとともに、顧客専任のアプローチ体制を構築し、需要を能動的に開拓

パートナー連携

半導体メーカー・クラウド事業者とのアライアンスを深化。最新ハードウェアへの先行アクセスと共同最適化を加速

M&A・資本提携

エンジニア組織のM&A・提携を推進し、APEXやFixstars Vegaの適用による生産性向上を図る。
付加価値と採算性を引き上げ、事業規模を拡大

海外展開

国内で積み上げた実績を土台に、AI推論需要が巨大な北米へ展開。現地クラウドや半導体メーカーとの協業を足がかりに市場を開拓

資本配分

推論インフラ投資は需要動向に連動させた段階的投資とし、潤沢な手元資金はM&Aおよび人材投資へ優先配分

企業文化を活かした組織拡大と、技術経営人材の育成

独自のカルチャーを強固な基盤とし、成長戦略の成否を分ける事業・経営人材を社内外から登用

技術経営人材の育成

一流の技術者が経営を学び、実践する機会を
創出。技術者から経営層への登用の道筋を確立

人事機能の強化

採用・育成・評価のプロセスを高度化。
エンジニアに加え、事業開発・能動的営業・
M&A等を牽引する専門人材を獲得

企業文化

自由と規律

自分で考え、自分でやる

多様な人材が働ける環境

業務環境のバイリンガル対応を推進。
国籍を問わず優秀な人材が能力を発揮できる
受入基盤を整備

M&A組織の統合推進

対象会社へのAI環境の導入と迅速な
オンボーディングにより早期に統合を実現し、
組織を拡大

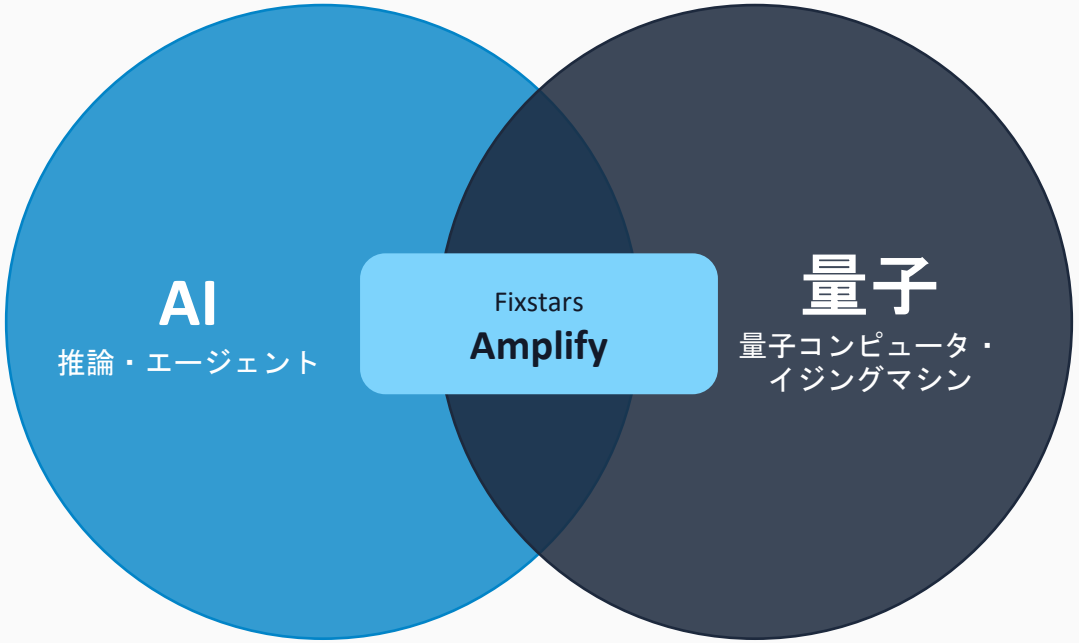
3年間の道筋

AI-Nativeサービスを土台に、推論インフラとAIエージェントによるストック収益を3年間で確立する

	FY2027　基盤構築・価値実証 2026/10–2027/09	FY2028　提供拡大・展開加速 2027/10–2028/09	FY2029　ストック収益の柱へ 2028/10–2029/09
サービス・組織	• 全案件でのAI活用とAPEXへの知見還流 • 顧客専任アプローチの体制とM&A推進機能の立ち上げ	• エンジニア1人あたり付加価値の向上を本格化 • エンジニア組織のM&A・組織統合を推進	• 国内実績を基盤に、北米市場への本格展開を推進 • 量子コンピューティングとAIの融合領域における先行ポジションの確保
AI推論	• Fixstars Inference Cloud（共有型）の公開と客観的な技術優位性の証明 • 専有型推論環境の導入実績の創出	• 共有型から専有型へのアップセル加速 • 非NVIDIA系推論チップへの最適化対応を拡充	• 共有型の従量料金・専有型の環境利用料による安定的ストック収益の柱を確立
Agentic開発	• 自社開発環境への全面適用による生産性向上の実証 • Fixstars Vega を専有型推論環境とセットで提供開始	• セキュリティ・数理最適化へ適用範囲を拡大 • Fixstars Vegaを共有環境（Fixstars Inference Cloud）上で提供開始し、利用ユーザー層を拡大	• 多様な産業分野・用途へ適用範囲を拡大 • エージェント利用料による安定的ストック収益を本格化

量子とAIの融合 — その時代に、最も活躍できる会社へ

急速に発展するAIと、実用化へ向かう量子コンピューティング
ハードウェアを知り尽くす技術力を武器に、両者が交わる次世代の計算基盤を開拓



AI推論から量子計算まで、
最適なハードウェアを統合して実用化するプラットフォーム

確立された事業基盤：Fixstars Amplify

主要な量子コンピュータ・イジングマシン・GPUソルバーにつながる
量子・数理最適化クラウドを商用展開。
企業・研究機関において実務適用実績と顧客基盤を蓄積

AIによる数理モデリング（定式化）の自動化

普及の最大のボトルネックである「業務課題の定式化」を
AIエージェントが支援。
現場の最適化課題をFixstars Amplifyへ容易に投入可能に

ハードウェア非依存な拡張性

特定の計算機に縛られない共通基盤。
将来、商用量子コンピュータが実用化された際にも、
既存の資産をシームレスに次世代ハードウェアに移行

VISION 2030

2030年：AIエージェントが社会の隅々で働き、推論の計算量が爆発的に増え続ける

その時代の最適なハードウェアでAI推論を動かし、AIエージェントとともに社会のソフトウェア開発を担う

企業のソフトウェア開発・セキュリティ・最適化　顧客の現場

Fixstars Vega　Agentic開発 — 推論の上で働く開発用AIエージェント環境

Fixstars Inference Cloud　AI推論 — 共有型 ／ 専有型 Own your Intelligence

最新GPU　推論アクセラレータ　エッジSoC　量子コンピュータ

その時代の最適なハードウェア　|　APEXと最適化サービスの知見が性能を支える

※本資料に記載されている将来の計画や目標等は、現時点での想定に基づくものであり、今後の事業環境等の変化により変更される場合があります。